Ⅱ　学校生活支援シート及び学校生活支援ファイルを活用した引継ぎの事例

学校生活支援シートを活用した引継ぎの事例　①

～ろう学校幼稚部から幼稚園へ転学する際の引継ぎ～

事例（ろう学校）

・幼稚園年長組（現在）　　障害名　感音性聴覚障害

（幼稚部在籍時の幼児の様子）

・　聴覚をよく活用し、静かな場所では音声のみで会話が可能である。おしゃべりが大好きで、気付いたことを身近な大人によく話しかけていた。担任等から指導を受ける際は、口形を見ないで聴覚だけで判断していた。そのため、聞き違いをすることがある。

・　自ら積極的に友達と関わって遊ぶ姿もみられたが、主に手話をコミュニケーション手段として活用する幼児とは、伝え合うことが難しい面がみられた。

■　保護者のねがい

・音声言語でやり取りする力を生かしながら語彙を増やし、様々な表現に触れる機会を増やしたい。

・同年齢の集団活動や遊びを通して様々な体験をし、友達とコミュニケーションを取りながら、遊べるようになってほしい。

■　幼稚部担任のねがい

・言語力を活用して、コミュニケーションを取りながら、様々な場面で友達と関わって遊べるようになってほしい。

９月からの転学に向けて引継ぎを実施

■　第１回支援会議（８月）　幼稚園の環境や幼稚園での行動観察を行い、幼稚園担任と支援会議を実施

【参加者】ろう学校（幼稚部自立活動担当者、幼稚部担任）・幼稚園（園長、年中組担任）・保護者

・行動観察場面
1　ろう学校の環境と異なり、騒音下での聞き取りが必要である。
2　担任の指示など、音声のみの場合が多い。
3　ろう学校の小集団と異なり、20 人以上の集団の活動になる。
4　いくつかの小集団に分かれているが、集団活動の内容が本児には視覚的に分かりにくい場面がある。
5　子供同士のコミュニケーションは音声のみとなり、様々な方向からの声掛けがあるため受け取めにくい。

・支援会議の内容
1　保護者の願いを聞く
2　幼稚園側の受け入れに際しての心配事を聞く。
3　本児の情報の取り方（聞こえの特徴・言語力・指示の注目）についての共通理解を図る。
4　集団の規模の違いについての共通理解を図る。

幼稚園入園　９月　**※乳幼児教育相談で月１回のアフターケアを担当することにした。**

■　保護者との面談及び行動観察（１１月）

・学校生活支援ファイルについての説明
（作成の流れ、活用の目的など）
・幼稚園に通園してからの様子の聞き取り
・学校生活支援シート作成に向けて「保護者アンケート」の記入を依頼

聞き取りの様子について、分かりましたので、少し安心できました。配慮していきます。

幼稚園担任

→幼稚園入園後の保護者からの心配事や願いが多く出されました。

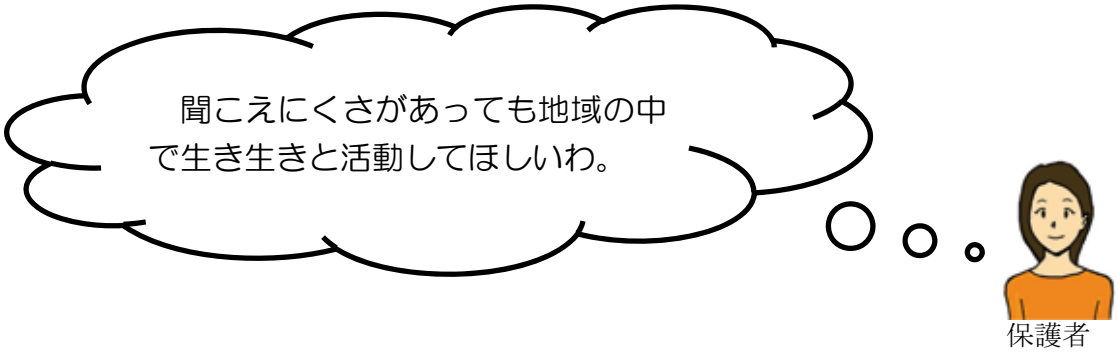
保護者アンケートより

≪幼稚園生活への期待や成長への願い≫

・友達とコミュニケーションを取りながら、遊べるようになってほしい。
・落ち着いて行動し、周りをよく見て、今何をすべきか考えられる力を付けてほしい（自分で勝手な判断をしないで、聞こえないときや困ったときは周りに聞いてほしい。）。

≪幼稚園に引き継いでほしいこと≫

【コミュニケーション】
・聴覚を活用し、音声でのやり取りを中心にしていきたい。聞き取りが困難な場合は文字や手話を使うようにお願いしたい。
【生活面】
・自分でできることは自分でする。見通しをもった行動ができるようになってほしい。
【心身及び社会性】
・様々な集団で活動し、人との関わりを広げる。
【その他】
・困ったときや説明を求められたときなど、相手に伝わるように話すように促してほしい（声の大きさ、話す速さなどに気を付けて、説明がきちんとできるようになってほしい。）。



■ 幼稚園での行動観察（１２月）

【参加者】幼稚部自立活動担当者、乳幼児教育相談担当者
・引継ぎを目的とした学校生活支援シート作成のため、行動観察及び幼稚園担任との情報交換をした。
・幼稚園担任からは「以前よりも発音が悪くなったのでは」という不安が伝えられた。
　→12 月　聴力測定実施　聴力低下は見られず、補聴器の故障が判明したので修理を行った。

■ 第2回支援会議（１月）

【参加者】ろう学校（幼稚部自立活動担当者、乳幼児教育相談担当者）
　　幼稚園（年中組担任２名）・保護者

保護者アンケートと行動観察の内容を学校生活支援シートに反映　※第２回支援会議で使用

３－１　支援の目標	
・自分の気持ちや状況を伝え合いながら、友達と一緒に楽しく遊ぶ。 ・困った時や分からない時は、自分から先生や友達に質問して確かめようとする。	
学校の指導・支援	家庭の支援 家庭で取り組んでいること、頑張りたいこと
・経験したことや状況を基に話し合い、語彙を増やしたり、新しい表現に触れたりする機会を作る。 ・簡単なゲームやかるた、しりとりなどの言葉遊びを通してルールや勝敗を言葉で説明できるように支援する。 ・発音の課題に応じて、苦手な音を意識して発音できるように支援する。 ・ろう学校での相談（1回/月）を継続して行う。	・絵日記や手紙など文章を書くことで、言葉の理解を深める。 ・読書をする時間を継続して作る。 ・1 日にあった出来事をしっかり聞き、「何か困ったことや言いたいことはいつでも言ってね」と相談できるように心掛ける。 ・片足立ちができなかったが、練習してできるようになった（お正月に左・右どちらでもできるようになった。）。

■家庭での支援

・　幼稚園での様子を本児や担任から聞き、生活の様子を把握するように依頼しました。

・　親子での楽しい遊び会話を心掛け、語彙を増やしたり正しい表現に触れたりする機会をもつように助言しました。

心配な時はいつでも相談にきてくださいね。

■幼稚園での支援

・　幼稚園入園後の保護者の思いを丁寧に聞き、保護者が捉えている状況を詳しく確認しながら園生活での心配や不安について把握するようにしました。

・　園生活に慣れてきたので、見通しをもって行動できるようになったり、友達と楽しく遊んだりする姿が見られるようになりました。

・　持ち物についての指示が本人に伝わっていなかったことが分かり、保護者は、日常的に配慮されていないのではないかと不安が大きくなっていたようでした。

・　これらのことから、「聴覚を活用していても、聞こえにくい」ことを全職員が理解し、集団参加への不安が大きくしないようにしました。

個別指導計画に反映

幼稚園担当者への支援（聴覚管理担当自立活動教員より）

〇聞こえについて　・耳のしくみやオージオグラムについてプリントを提示して説明

・疑似難聴体験⇒補聴器は周囲の音も増幅してしまうため、話題を伝えてから話すことの重要性や、集中して聴き続けることの難しさなど実感する。

〇必要な支援について　・集団への情報提示の場面で、写真や文字などの視覚的な手掛かりを可能な範囲で使用することが必要

指示が通じていると思ったけど、困っていたのね。時々一人で外に抜けて遊んでいたのは騒音から抜け出して静かに過ごしたかったからなのね。

幼稚園担任が気付いたこと

学校生活支援シートを基に、保護者の不安や願いを具体的に確かめながら支援会議を行ったことで、聴覚障害への理解が一層深まりました。

学級での集団活動の場面で、本児に分かりやすく伝えるために文字や絵・写真などを提示することを心掛けるようにしています。

幼児の変化

確実に理解できることが増えたことで、自信をもって行動する場面が見られるようになりました。

保護者の反応

支援会議の翌日からすぐに、子供に分かるように言葉掛けをしてくれていると感じました。

幼稚園で楽しく過ごしている姿を見て、安心して子供の園での生活を見守ることができるようになりました。

■　ろう学校の教員が気付いたこと

- 学校生活支援シートを作成するに当たって、保護者にアンケートを記入してもらったことで心配事や願いを具体的に把握することができ、それに応じて幼稚園の訪問ができました。
- 保護者の願いや思いを、学校生活支援シートに明記することで、幼稚園担任とろう学校の担当で共通理解でき、必要な支援を具体的に検討できました。
- 家庭での支援を具体的に話し合うことができ、アフターケアの乳幼児教育相談担当者と保護者が同じ歩調で本児のきこえや言語を支援することができました。
- 幼稚園担任から、きこえに配慮した言葉掛けが見られるようになり、保護者の安心につながったと思います。

学校生活支援シートを活用した引継ぎの事例　②

～就学支援シートを基に学校生活支援シートを作成する事例１～

事例（肢体不自由特別支援学校）

- 小学部１年（現在）　　障害名　てんかん
- 介助により、歩行をすることができる。
- 脱力する発作が一日に複数回ある。
- 呼名に対して「ハイ」と返事をすることができる。
- 声や手差しで要求を伝える。
- 友達が好きで、自分から働き掛けようとするが、うまく伝えられないことがある。

■本人・保護者のねがい

（本人）

・新しいことをたくさん経験し、学び、少しずつわかることを増やしていきたい。

（保護者）

・友達と楽しく過ごす。

・生活する上での基本的なルールを理解し、身に付けていく。

・地域のつながりを大切にし、孤立しないよう地域行事に参加していきたい。

■就学前機関の担当のねがい

・友達と関わることが好きなので、入学後もたくさんの人と関わっていってほしい。

・自信をつけながら学習を進めてほしい。

・本人と保護者のニーズを把握し、関係する機関から必要な情報を提供してほしい。

特別支援学校入学に向けて引継ぎを実施

■　就学前機関での行動観察、引継ぎ会（２月）

【参加者】特別支援教育コーディネーター、就学前機関担当者

就学前機関に伺い、本児の活動の様子を観察し、引継ぎを行った。

【主な引継ぎ内容】

・本人の現在の様子・継続して指導していく点・環境が変わった時に配慮すべき点　など

■　就学に当たっての関係者会議（３月末）

【参加者】特別支援教育コーディネーター、学年担任６名、支援部２人　計９人

・行動観察、引継ぎ会を基に、実態の共通理解を図った。

・入学時の変化に対する支援として、受け入れる準備や環境設定等を行った。

就学支援シート作成・受け取り（就学相談）

特別支援学校　入学（４月）

■就学前機関との引継ぎ会（４月末）

・就学前機関に伺い、特別支援学校に入学後の学校生活の様子を踏まえ、就学支援シートを基に、引継ぎを行った。

●　就学支援シートから学校生活支援シートに反映

就学支援シート（幼稚園、理学療法士、言語療法士、保護者が作成）を踏まえて、就学前機関からの引継ぎや、保護者と面談し、学校生活支援シートの作成を行った。

□　成長・発達の記録

（身体・健康、日常生活、関わり方、遊び・学習、性格・特徴）
学校生活支援シート（シート２）
➡「個人の実態表」に反映

□　指導内容・方法の工夫や必要な配慮等

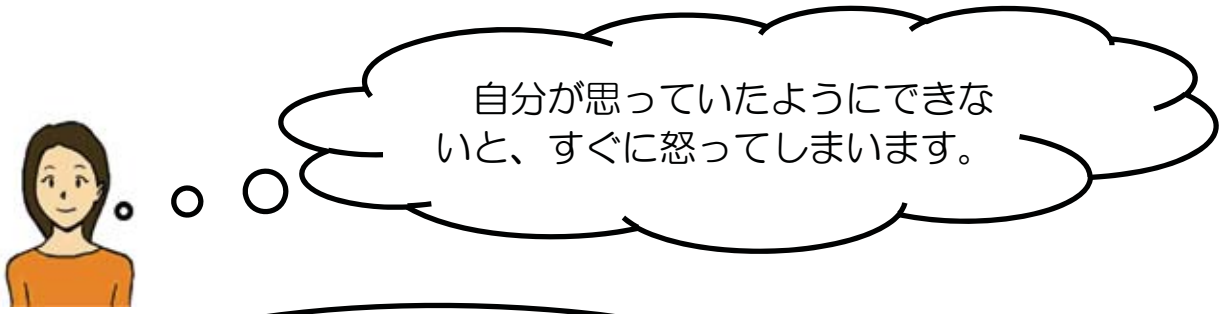
学校生活支援シート（シート２）
➡「個人の実態表」に反映

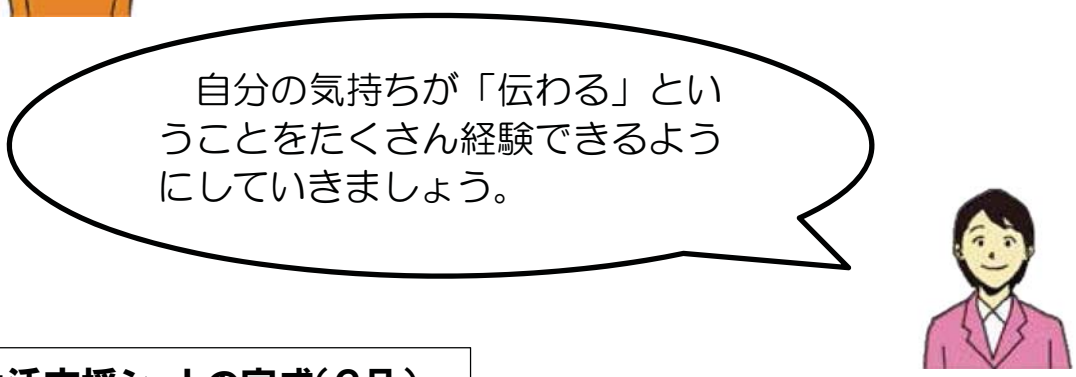
□　就学後の生活に関する家庭の意向・要望・期待等

学校生活支援シート（シート１）
➡「学校生活への期待や成長への願い」に反映

■　保護者面談（５月）

・行動観察、引継ぎ会を経て作成した学校生活支援シートの案を基に、保護者面談を行い、今年度の目標、支援について話合いを行った。





■学校生活支援シートの完成（６月）

■ 学校生活支援シートの作成例

３ 支援の目標	
・歩く力を付けていく。 ・新しい経験をたくさん積み重ね、できることを少しずつ増やしていく。 ・相手の話を聞いて、簡単な指示に沿った行動ができるようにしていく。 ・外部機関のサポートを受けながら、地域での活動に参加できるようになる。	
学校の指導･支援	**家庭の支援**
・トイレに行く際の移動は歩行器を使い、歩く練習をする。歩く際は、目的地をカードと言葉で提示するとともに、擬音語を用いた言葉掛けを行い、楽しんで歩行できるようにする。 ・本人の表情や行動から、興味や関心をもった物事をよみとり、個別学習に取り入れていく。学習はスモールステップで行い、成功経験を積み重ねられるようにする。 ・本人が話に集中できるよう、落ち着いた環境の中で指導を行う。指示は、サインや絵カードを用いながら、簡単な言葉を用いて、短文で行う。 ・副籍交流は、楽しく安全に交流できるよう、地域指定校との連絡を密にし、連携しながら進める。直接交流をすることで、地域に住む就学前からの友達関係をつないでいけるようにする。	・規則正しい生活を送れるように、なるべく毎日同じ生活リズムで過ごせるようにする。帰宅後や休日はスケジュールが過密にならないようにし、昼寝や静かに過ごせる時間を作る。 ・本人からのメッセージを、表情や行動から読み取り、家族で共有する体験を増やしていく。 ・様々なことを「できない」と決めつけず、最後までできなかった場合も、どこまでならできるのか、またどう支援すれば本人の力を引き出せるのかを考える。

主な介護者	移動（母）
食事（母）	排せつ（母）
着脱（母）	入浴（母）

■ 特別支援学校の支援

・健康面・日常生活・本児への関わり・学習・行動等について担任間で情報を共有した。
・地域とのつながりを大切にしたいという願いから、学校として地域や外部機関との連携を深め、ネットワークとして児童の生活について考えるようにした。
・福祉事務所訪問を活用し、相談支援専門員も含めて本児の生活について話し合い、将来のことも視野に入れ、今できることと、今すぐ解決できない課題を共有した。

■ 家庭での支援

・まずは、体調を整えることを第一に考え、生活リズムを整えることを目標にした。
・本人が自信をもって様々な経験ができるように、情報交換をしながら関係機関と連携する。

個別指導計画に反映

学校生活では、就学支援シートを参考にした継続した支援や、適切な場面設定を行っていくことで、友達と一緒に遊ぶことを通してルールを学んでいます。

児童の変化

・できないと思い込んだことは、手を貸してもらおうとすることが多かったですが、一度経験したことについては少しずつ自信がついてきて、自らやろうとする姿が見られるようになってきた。
・放課後等デイサービスに通うようになり、学校外でも友達と一緒に活動する場面が多くなり、様々な人に自分の気持ちを伝えようとしていて、コミュニケーションの力が広がってきた。

相談支援専門員に計画相談を申し込み、学校生活支援シートを提示しながら本人の生活について相談を進めています。

保護者の反応

・関係する機関等に学校生活支援シートを提示することで、全てを説明する手間が省け、必要な事項について話合いを充実させることができました。
・放課後等デイサービスの利用を始めることができました。楽しみに通っているので安心しています。
・区内のサークル活動等は、福祉事務所訪問で情報を得ることができたので今後利用を考えています。
・福祉サービスを利用するようになり、生活リズムが整えやすくなりました。本人も体調が良いので私自身にも余裕ができてきましたので、家庭でもいろいろなことを体験させるようにしたいです。
・福祉事務所訪問で、相談支援専門員も同席していただくことで、ネットワークとして子供の生活を考えていくことができることを実感しました。

■　担当する教員が気付いたこと

・　入学前に、児童が好きなことや体調面（特に発作）の対応について知ることができ、事前に環境を整えておくことができましたので、安心して学校生活をスタートできました。
・　就学前機関からの客観的な視点で記入されている就学支援シートの内容は、児童の把握に役立ちました。また、集団生活での課題や配慮事項を知ることができ、継続して支援ができました。
・　「適切な支援」を次の学年に確実につなぐことが大切です。

学校生活支援シートを活用した引継ぎの事例　③

～就学支援シートを基に学校生活支援シートを作成する事例２～

事例（知的障害特別支援学校）

・　小学部１年（現在）　　障害名　ダウン症

・　新しい物事に取り組むに当たっては、活動の見通しがもてるまで活動ができず、活動し始めた時には指導時間が終わってしまっていることがある。

・　やる気がある物事に対しては、ゆっくりでも集中力や頑張りを見せるので、諦めずに見守ってほしい。＜保護者記入の「就学支援シート」から＞

・　好きな遊びを、絵カードや写真カードで選択して伝えることができる。やってほしいときにはクレーン動作や、「やって」「ちょうだい」は両手をたたきながら伝える。

・　新しい活動や場所への移動では、初回は教師が手をつないだり、身体援助で促したりすると不安が軽減される。また２回目の活動からは落ち着いて参加できる。

・　体力が落ちると覚醒水準が下がり活動への参加も低下するため、毎日継続して身体を動かす必要がある。＜就学前機関記入の「就学支援シート」から＞

■本人・保護者のねがい

・発達の土台となる「好奇心」の伸びが少ないように思います。学校での様々な経験を通して多くのものに目を向け、その中から自信を持って取り組めることを見付けてほしい。

・地域の理解を得た上で、地域の一員として自然な形で溶け込めるようになりたい。

■就学前機関の担当のねがい

・引き続き教員との丁寧な関係作りを基盤に、「やりたい」という気持ちが更に育っていくことを望んでいます。

・絵や写真カード（視覚的支援）、歌や音楽（聴覚的支援）を手掛りとして活動内容を理解することで、見通しをもって積極的に参加することができます。

・一定の流れや繰り返しのある活動で役割を理解し、自信をもって行うことで、日々の学習活動への意欲を高めていけると思います。

特別支援学校入学に向けて引継ぎを実施

■　就学前機関での行動観察、引継ぎ会（３月）

【参加者】主幹教諭、就学前機関（幼稚園教諭）

【主な内容】

＊就学前機関（幼稚園）に在籍中の3月に、主幹教諭が本児童の様子を観察するとともに、就学支援シートの作成を依頼する。

特別支援教育コーディネーター

就学支援シートへ記載する際のポイントを伝えるとともに、聞き取りをしながら、引き継ぎたい支援を共有しました。

■　**就学支援シートへ記載する際のポイント**

・　何が「できない」などを記入するのではなく、就学前機関で過ごす中で、このような支援をしたらスムーズだったなど、有効だった支援を記入する。

・　「こんな方法で支援をすればパニックならない・・」「行く場所を事前に写真で伝えればスムーズに移動できる・・」など今まで行ってきたことを引き継ぎ、学校生活をスタートする。

■　就学支援シートと学校生活支援シートの関連

就学支援シート ⇔	学校生活支援シート
・保護者記入ページの１－５ 「これからの生活への期待や成長への願い」	１：学校生活への期待や成果への願い
・保護者記入ページの１－４：「現在の発達の様子とかかわり方」 ・就学前機関記入ページの２－３：「現在の発達の様子と支援の方法」	２：現在のお子さんの様子
・保護者記入ページの１－６：「家庭での支援」 ・就学前機関記入ページの２－２：「支援の目標」 （これまでの取組、就学先でも継続が必要と考えられる支援の目標）	３：支援の目標
・保護者記入ページの１－２：「支援機関の支援」	４：支援機関の支援

就学支援シートの記入例

「現在の発達の様子と支援の方法・関わり方」

＊着替え

・ゆったりとしたシャツであれば、頭の途中まで通すと、後は自分で着ることができる。（就学前機関記入）

・洋服の前後表裏は確実ではないが、一つずつ手渡せば一人でほぼ着替えることができる。（保護者記入）

＊コミュニケーション

・クレーン動作が主だが、「やって」の要求はこちらが「や・・」と初めの一音を伝えると、自ら言葉で「やって」と要求を伝えることができる（就学前機関記入）。

・両手をたたくサインで「やって」と伝えることができる（保護者記入）。

学校生活支援シートの記入例

※「支援の目標（長期目標）」

・排泄、着替えの自立を確立させる。

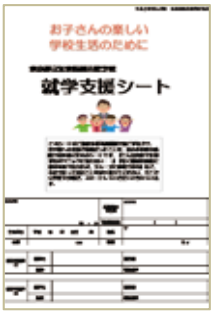
※学校での指導・支援

・着替えは担任が１対１で対応し、同じ流れで繰り返し覚えられるようにする。

・意思表示の様子が見られたときには、その思いをくみ取って言葉で代弁するようにする。

学校生活支援シートは要点を絞って記載し、学習面での具体的な手立ては個別指導計画に記載するようにしました。

■特別支援学校での引継ぎ会の実施　（５月）



【参加者】担任、就学前機関（幼稚園教諭）、特別支援教育コーディネーター

・登校から下校までの時間を観察していただき、移動や排せつの支援、食事介助など実際の場面での支援方法の引継ぎを行った。

・放課後に持参してくださった映像で、就学前の様子を実際に担任が知る機会となった。

■　早い時期に引継ぎ会を行うことがとても有効です。

■　学校生活支援シートの作成例

３－２　支援の目標	
〈長期目標〉 ・排せつ、着替えなどが自立できるようにする。 ・見通しをもって行動できるようにする。 ・伝えたいことの表出手段を増やし、コミュニケーションを楽しめるようになる。	
〈中期目標〉・ ・絵カードや写真を見て、先の見通しをもてるようにする。 ・伝えたい思いを表出するための単語やジェスチャーを増やす。 ・トイレでの排せつのリズムを確立させ、パンツのみで過ごせるようにする。	
学校の指導・支援	家庭の支援
・活動ごとに、絵カードや場所の写真カードを用いる。 ・意思を表示しようとする様子が見られたときには、その意思をカード等を用いて確認するようにする。 ・定時でトイレに誘うとともに、排せつのサインを見逃がさないようにする。 ・着替えは担任が1対1で対応し、同じ流れで繰り返し覚えられるようにする。	・僅かなサインを見逃さずにトイレへ誘う。その時にマカトン法のトイレのサインを示し、覚えさせる。 ・気持ちを伝えられない場面は、なるべく代弁し、単語やジェスチャーにつなげたい。
	地域の支援

■　特別支援学校の支援

・　一日のスケジュールの説明や授業の流れを伝える時には、必ず絵カードや写真などの視覚支援を活用し、視覚的に分かりやすくして、見通しをもちやすいようにする。

・　就学前機関や保護者からの就学支援シートから、「一度経験すると二回目からは抵抗なく取り組めることが多い」ということを引継ぎ、活動の初日にはあまり強く勧めないようにする。

・　排せつの面では、就学前までに「布パンツとパッドで過ごすことがほぼ確立し、定時排せつも身についてきていた」という就学支援シートの記入から、保護者や就学前機関での排せつのタイミングを引き継ぎ、児童の様子を入学当初からよく観察し、見逃さないようにする。

■　家庭での支援

・　家庭でも学校での学習の予定や、学校以外の予定を話すときには、写真やカードなどを使って分かりやすく伝えるようにした。

・　排せつは、タイミングの違いが出てきたときには、連絡帳で詳細に記入して伝えていただくようにした。

特別支援教育コーディネーター

家庭訪問等で保護者と確認しました。

個別指導計画に反映

児童の変化

- 特別支援学校入学後スムーズに学校生活をスタートすることができました。
- 初めての活動や通常の学習と違う状況はとても不安ですが、担任の先生やよく知っている先生との関係の中では、初めての活動でも教員の促しに応じて、学習に取り組めることが増えてきました。

保護者の反応

- 授業参観や学校行事などの際に、周りの児童と一緒に活動できている姿をみて安心しました。
- また、学校だけではなく、放課後活動施設での活動でも、積極的な姿が見られるようになり、自信をもってできることが増え、コミュケーションの幅も広がってきていることがうれしいです。

■ 担当する教員が気付いたこと

- 保護者や本児童が就学前に関わった２か所の就学前機関から引き継いだ「就学支援シート」の記入から、これまでに積み上げられていた発達の様子を知ることができました。また支援の方法を引き継ぎ、意識して同じ支援を行ったところ、とても有効であると実感することができました。
- 就学前機関で有効であった支援方法を継続することで、早い時期から児童が担任を信頼し、関係性の構築をスムーズに行うことができました。

学校生活支援シートを活用した引継ぎの事例　④

～保護者の主体的な参画を促す「作成支援シート」の工夫～

事例（知的障害特別支援学校）

- 小学部１年（現在）　　障害名　知的障害　染色体異常
- 就学前は保育園に在籍
- 発語は少なく聞き取りにくいが、ジェスチャー等で関わりをもとうとする。
- リズムを取ることが得意で、リトミックなどの活動では積極的に活動に参加する。
- 乗り物が好きで、バス、電車、自動車、エレベーター等、自分が乗れて動くものに興味がある。
- 洋服の着脱は、支援を行うと自らも着替えようとする動作を行うことができる。
- 音に敏感で、大きな音は苦手である。

■本人・保護者のねがい

・自立した生活が送れるようになってほしい。

・一人でできることを一つでも増やしていきたい。

■就学前機関の担当のねがい

・好奇心が旺盛で、いろいろなことに興味・関心が移ってしまうことがあるので、集中して取り組めることを広げていきたい。

・好きなことを途中で止めるととても嫌がりますが、事前に伝えておくことで気持ちの切替えができるようになりました。

■　未就学児対象の支援事業を通した工夫

学校生活支援シートの作成に当たっては、保護者が初めて作成することを考慮し、少しでも書きやすく、抵抗感を減らせるように「作成支援シート」を利用しています。

実際に、この「作成支援シート」を活用し、具体的な例を挙げながらやり取りをすることによって、保護者は客観的に我が子を見直す機会となり、我が子の見取りから将来への希望や学校への要望もより具体的に考えることができました。参加者には「作成支援シート」を就学先へ提供するよう依頼しています。

特別支援教育コーディネーター

■校内支援事業「たんぽぽ広場」

・保護者懇談会で、子供たちを支えるネットワークの必要性と支援をつなぐツールの意義と必要性について話題にし、実際に作成する会を設定しています。

・懇談会では、在校生や卒業生の保護者に協力していただき、支援者の必要性や様々な資料をまとめて保管（学校生活支援ファイル）し、関係機関等へ伝えることにより、より支援を得やすくなること、障害者基礎年金の申請の際に重要な資料になり得ることなどの情報提供をしていただきました。

■校外支援事業「コアラ広場」（エリア内の幼稚園等を会場として実施）

・「作成支援シート」を活用し、「就学支援シート」作成に向けての支援を行っています。抵抗感の低いツールを使うことで、保護者が「書いてみよう」、「使ってみよう」という気持ちになり、就学への不安や、地域生活の充実に効果を発揮できると思います。

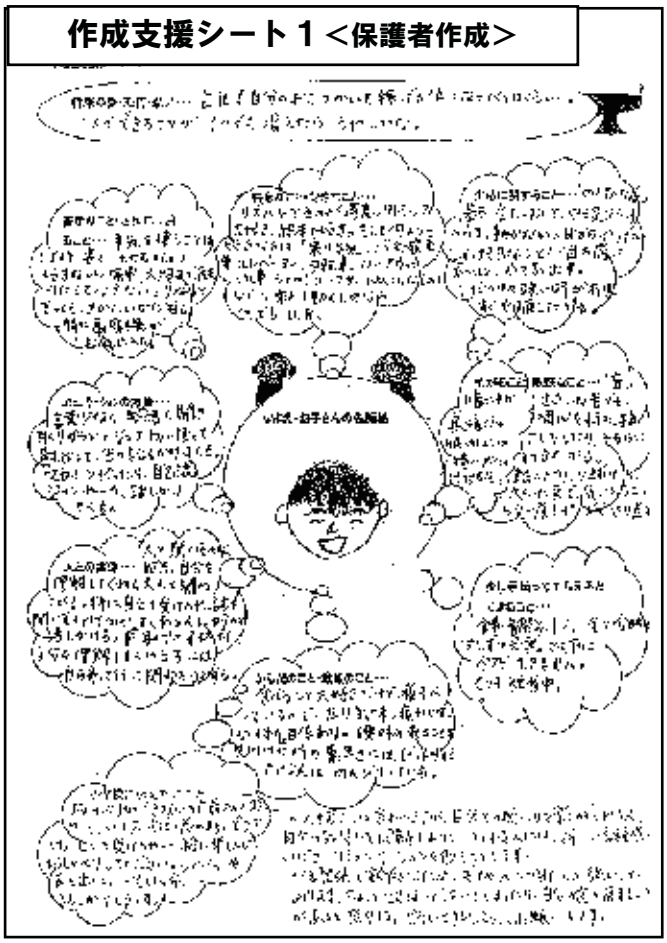
事例の児童の保護者は就学前施設の担任に同じシートの作成依頼をし、入学時に本校へ提出しました。

就学や環境の変化への不安感の高い保護者でしたが、このような引継ぎに有効なツールを使用することで、不安感を減らすことができると思います。

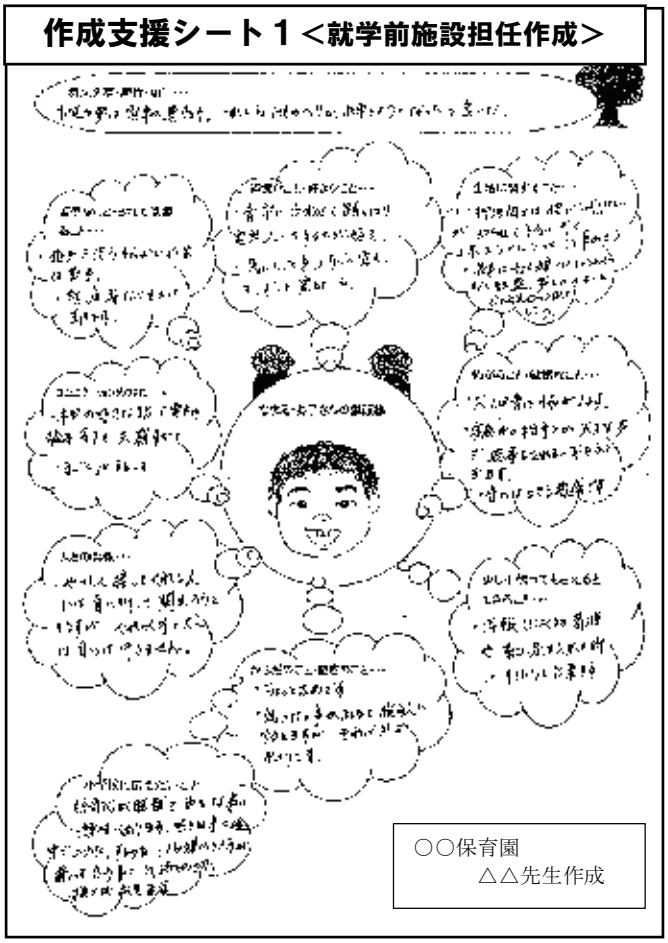
特別支援教育コーディネーター

■「作成支援シート」の記入

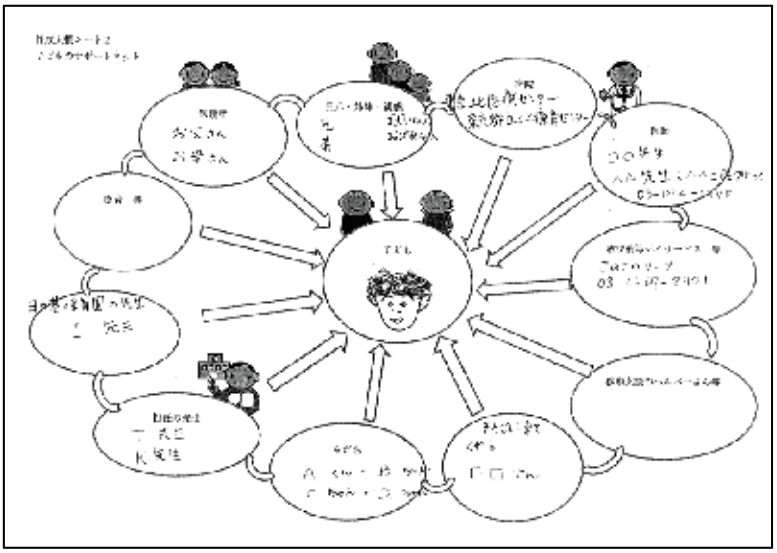
作成支援シート１<保護者作成>



作成支援シート１<就学前施設担任作成>



作成支援シート２<保護者作成>



【「作成支援シート」から学校生活支援シートに引き継ぐ内容】

・『将来の夢、期待、願い』は学校生活支援シートの項目１へ。

・その他の項目については項目２『現在のお子さんの様子』や本校で使用する２ページ目の児童・生徒の様子へ。

・作成支援シート２の内容については３ページ目の項目９『支援機関の支援』へ。

■　学校生活支援シートの作成例

１　学校生活への期待や成長への願い（こんな学校生活がしたい、こんな子供（大人）に育ってほしい、など）	
本人から	
保護者から	自分の身の回りのことは、自分でできるようになってほしい。 ひらがな、1から 10 までの数を理解できたらうれしい。

２　現在のお子さんの様子（得意なこと・頑張っていること、不安なことなど）
・音楽に合わせて踊ったり、リズムをとるのが得意 ・バス、電車、エレベーターなどの乗り物が大好きで、見立て遊びをすることができる。 ・サインやジェスチャー、発声によって一生懸命意思を伝えようとしている。 ・要求をサインや発声によって伝えることができ、教員の問い掛けにも意思表示をすることができる。

３　支援の目標
・身の回りのことを、教員と一緒に取り組むことができる。 ・小集団の学習の中で、活動を楽しむことができる。 ・経験したことや、要求、困ったことを身近な大人にサインや発声で伝えることができる。

学校の指導・支援	家庭の支援
・初めての活動は事前に伝え、本人が見通しをもって臨めるようにする。 ・集団活動で、注意がそれてしまう場合は、適宜、個々に指示をして本人が理解して行動できるようにする。 ・他者との関わりでは、教員が介入することで子供同士のやり取りや関わり方を覚えていけるようにする。	学校やデイサービスで本人が落ち着いて過ごしていけるよう、家庭でもコミュニケーションをとっていく。

作成支援シート１，２を基に学校生活支援シートを作成し、家庭訪問を利用して内容を保護者とともに相談し、支援内容について確認しました。

小学部１年生ということもあり、関係機関等での活用場面は少ないですが、相談支援の際や、放課後等デイサービス等の支援機関を利用する際に、アセスメント資料として活用できるよう関係機関や事業所等を対象とした「支援機関連絡会」を定期的に開催し、各関係機関への働き掛けを学校からも行っています。

■ 学校生活支援シートに追加したシート

４　児童・生徒の様子/支援の際の配慮事項等	
健康・運動面	生活面（身辺自立）
大変活発であるが、歩行がやや不安定である。靴にインソールを入れている。低緊張で鈍麻なため、力加減が難しい部分があるので注意が必要である。リトミックが得意で、音楽に合わせて身体を動かしたり、見本を見て模倣をしたりすることができる。	着替え、排せつ、食事などの基本的な日常生活動作に支援が必要であるが、一人でできる部分がある。食事は量や大きさを考えずにどんどん口に入れてしまうため、介助者が調節する必要がある。
情緒・関わり方	好きなこと・嫌いなこと
自ら他者に関わろうとする。サインやジェスチャー、発声で一生懸命気持ちを伝えようとする。好きなことを止められたり、思い通りにいかなかったりするときには、泣いてしまうことがあるが、事前に伝えることで納得することができ、気持ちの切り替えも早い。	好きなこと・・・くすぐり遊び、乗り物に乗る、絵本、リトミック 嫌いなこと・・・手先を使う作業
学習面	社会性・意思の伝達・コミュニケーション手段
言語として表出することはできないが、身近なものの名称を理解しており、ジェスチャーやサインで伝えることができる。集団の活動では、読み聞かせを楽しんだり、物を見立てて電車ごっこなどをしたりすることができる。	サインやジェスチャーでコミュニケーションをとることができる。二語文程度の簡単な質問に答えることができる。気に入ったときや納得がいかないときは、こだわることがある。
特に配慮を要すること	通学指導
アレルギー　無 発作　無 服薬　無 その他　無	ステップ１ ＜具体的な内容＞ 教員や友達と手をつないで移動することができる。

本校では、保護者や就学前機関に記入していただいた「作成支援シート」を参考に、支援の際の配慮事項を一覧にして、学校生活支援シートの追加シートとしました。

■ 担当する教員が気付いたこと

- 「作成支援シート」により、保護者が学校生活支援シートを作成することへの抵抗感を減らすとともに、不安や期待を具体的に把握でき、保護者のより主体的な参画につながりました。
- 「作成支援シート」の作成に当たり、保護者同士や先輩の保護者やり取りをしながら進めることで、支援機関や支援内容等についての情報交換や、普段なかなか口にできない子育ての悩みや不安等を話すことができ、「ピアカウンセリング（同じ立場にある者同士によって行われる悩みの相談や助言・援助）」になっていました。
- 特別支援学校の入学前に保護者同士のつながりももて、一層の安心感につながったように感じます。

学校生活支援シートを活用した引継ぎの事例　⑤

～特別支援学校幼稚部から小学部への引継ぎ～

事例（ろう学校）

- 小学部１年（現在）　障害名　聴覚障害　人工内耳装用
- 何事にも興味・関心をもち、積極的に取り組み、自分の思いや考えを友達や保育者に伝えている。また、リーダーとして年少児のお世話にとても意欲的である。話合い活動では相手に合わせゆっくり話をするなど自分で考えて工夫する様子も見られた。
- 食物アレルギーのため、給食は該当の食品を除去する対応をしていた。また、動物が大好きだが、動物アレルギーもあり、触ることができないので、活動の制限が必要となった。
- 人工内耳を活用し、簡単なやり取りなら音声だけでも対応できるようになった。健聴児との交流を保護者、本児も希望し、保育園での交流など楽しんでいた。

■保護者・本人のねがい

保護者：障害の有無にかかわらず、人として、仕事をもち生活してほしい。また、結婚をして母親になってほしい。家庭での勉強の癖をつけさせたい。

本人：漢字を頑張りたい。大縄を頑張りたい。大きくなったら結婚してお母さんになりたい。お料理したり赤ちゃんのお世話をしたりしたい。

■幼稚部担任のねがい

様々な体験を通して、コミュニケーションに必要な基本的な語彙、日本語の基礎を身に付けてほしい。年齢相応の基本的生活習慣、社会性、マナーを身に付けてほしい。

担任との相談や入学相談などを経て、特別支援学校小学部への入学が決定。

幼稚部での支援はきちんと引き継いでもらえるのでしょうか。言葉の発達について不安があります。アレルギーもあるから心配です。

何をどのように書けばよいのかしら。

★　保護者が抱える多くの不安や迷い

- 進路選択の迷いや不安に思うことなどがあり、担任と随時面談を行い、保護者の願いと担任が指導上必要と考えることの共通理解を図ってきました。

丁寧な引継ぎが必要です。

■　学校生活支援シートの作成に向けた保護者アンケートの実施

- 保護者は、初めてのアンケートで、何を書いてよいか分からないという状況であった。
- 担任が保護者とともに子供の良いところ、課題となるところを考え、アンケートに記入していただいた。
- 子供の実態把握や、何を引き継いでいけばよいか共通理解ができた。

■① 引継ぎを兼ねた幼小合同研究保育（12月）

【出席者】　幼稚部全教員　小学部全教員　　計２０名

幼稚部の研究保育を小学部の教員も参観した。その日の放課後に合同研究会を設定し、一人一人の実態や保育内容、引継ぎ事項について伝えた。この会により、新年度入学予定の幼児全員について、小学部教員が具体的な情報を得ることができた。本児についても、保護者の不安も含め、現在の支援の状況を把握することができた。

■② 支援会議（2月中旬）

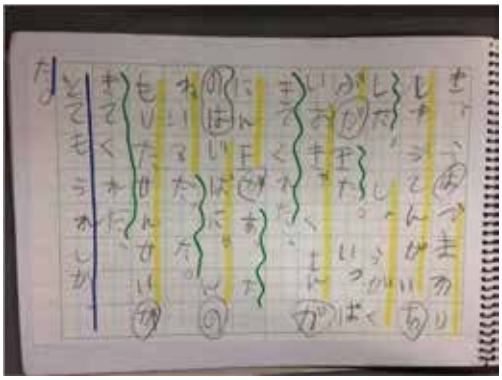
【出席者】　外部有識者、小学部教員、幼稚部教員　副校長　小学部主任

アセスメントの結果も含め、学校生活支援シートを基に、本児の実態について意見交換を行い、具体的な支援について考えた。

★外部有識者から学校生活支援シート作成に当たってのアドバイス

- 小学部に何を引き継いでほしいのかを明確にして、小学部の先生が「知りたい」ことをまとめましょう。
- 保護者アンケートは立派な引継ぎ資料となっているので、保護者も見返したりすることができるようにしましょう。
- 幼稚部の教材や作品などの記録も引き継ぐとよいでしょう。

外部有識者



幼稚部で使用していた教材例

■③ 引継ぎ会（3 月初旬）

【参加者】　　保護者　幼稚部担任（幼稚部主任）　小学部主任

保護者の思いや願い、現在の様子、支援目標等の引継ぎ事項について確認した。本児については、アレルギーについて状況と対処法の確認し、安全な学校生活を送ることができるようにした。保護者や本人が小学部入学に向けて心配なことや不安なことを聞き、小学部主任からのアドバイスを受けた。また、小学部入学に向けて準備しておきたいことの確認をした。

幼稚部卒業・小学部入学

■④　幼・小引継ぎ会（３月下旬）※小学部内での共通理解を図る

【参加者】　幼稚部担任（幼稚部主任も兼ねる）　小学部全教員　　主幹教諭

- 学校生活支援シートを活用し、入学時の引継ぎを短時間で詳しく行った。
- 一人一人の幼児の障害の状況や関係機関、保護者の希望、指導上必要なことなどを確認した。
- 保護者の願いや家庭の様子、アレルギー対応など、小学部で共通理解した。

■　学校生活支援シートの作成例

３－１　支援の目標	
・　小学部生活に慣れ、毎日楽しく通う。 ・　音声、手話、指文字を併用し、たくさんの人とコミュニケーション、関わりをもつ。 ・　年齢相応の基本的な生活習慣、社会性、マナーを身に付ける。 ・　全般的な基礎学力の定着を図り、日本語力を身に付ける。	
学校の指導・支援	家庭の支援 家庭で取り組んでいること、頑張りたいこと
・　小学部生活のルール、流れなどを丁寧に指導し、見通しをもって楽しく生活できるように支援する。 ・　学習場面や様々な体験活動を通して、言語につなげ、音声と手話、指文字を併用しながら語彙の拡充、日本語の力を育てていく。 ・　上級生と関わる場面を設定し、その中で憧れを抱いたり、様々なことを学んだりできるようにする。 ・　基礎学力が定着するように、課題設定、学習を進めていく。 ・　生活ルールなど理解できるように説明し、定着を図る。 ・　聴覚活用を促し、口声模倣や言い直しを丁寧に行っていく。	・　家庭学習を定着させて、50 音表の音読、書字指導なども行っている。 ・　絵本の読み聞かせを行う。 ・　登下校時のマナーなどは厳しくしつけている。 ・　音声だけで会話したり、音声の言い直しなどをしたり適度に行っている。 ・　友達と休みの日に遊べるようにしたい。

■　特別支援学校の支援

- 授業規律や学校生活ルールブックなど、目に見える形で学校生活のルールやマナーを提示し、定着を図った。そして必要な時には自分で振り返りや確認が行えるようにしている。
- 毎日の日記指導や行事ごとの作文指導など、自分が行ったことや考えを書字表現する機会を設ける。併せて音声や手話で発表する場を作ることでバランス良く言語の発達を促している。
- 国語や自立活動以外の教科等での指導や他の学年とのグループ学習においても、言語活動を意図的に取り入れることで、話し合いの形を覚えたり積極的に発言したりできるようにしてきた。

■　家庭での支援

- 日々の宿題をしっかりやることで、家庭学習の定着を図る。
- 連絡帳で担任との情報交換や宿題の確認、明日の授業の確認を親子で行うことで、学習の準備をしっかりできるようになってきた。

☆指導の継続⇒保護者の安心

引継ぎ会は
絶対に必要！

引継ぎ会で話ができて、安心しました。自分の子供が幼稚部で丁寧に指導を受けて、『ひらがなはこのぐらい書けている。こんなことができるようになっている。頑張ってきた』ということを、知ってもらえてよかったです。小学部に入って、そこから先の指導につなげてもらえるとありがたく思います。

保護者

児童の変化

入学後、小学部の生活にも慣れ、授業や休み時間など積極的に活動する姿が見られている。幼稚部からの継続した言語面の支援により、聴覚活用や手話を含めた語彙の拡充がなされている。小学部では、一からひらがなやカタカナの学習をするが、幼稚部での準備があったおかげで、書いたり読んだりすることに対して苦手意識をもたず、自信をもって学習できるようになった。

小学部新担任より

- 引継ぎ時に学校支援シートがあってよかったです。実態とか要望が分かりやすくまとまっていたので、保護者との初めての面談もスムーズに行えました。
- 学校生活支援シートを活用することで、３ 月中に引継事項や具体的な支援が確認できているので、４ 月当初から指導に生かすことができました。そのため、新学期の学校生活支援シート作成が簡単にできました。
- 食物アレルギーなど、入学してすぐに対応しなければならないことを確実に引き継ぐことができていたので、４月当初から学部全体で対応できてよかったです。特に、給食については間違いがあってはならないので、しっかりと引き継ぎ、小学部の全教員に周知することが、安心・安全な学校生活を送るために大切だと思います。

■　担当する教員が気付いたこと

- 保護者と一緒に引継事項を考え、学校生活支援シートを作っていくことがとても大事で、保護者の信頼へとつながり、安心感につながったことを実感しました。
- 学校生活支援シートを利用し、引継ぎ会に保護者が同席することで、その場で引き継がれた内容を確認でき、保護者の進学への不安が大きく軽減されました。
- 学校生活支援シートの支援目標を受けて個別指導計画を作成するので、指導や支援の一貫性が担保できました。
- 異動に伴い、担任間の引継ぎが難しい場合でも、学部主任やコーディネーター、主幹教諭など次年度引き継げる教員が引継ぎ会に参加することで、年度当初から新担任に内容を正確に伝えることができます。

学校生活支援シートを活用した引継ぎの事例　⑥

～外部専門家との連携を図った環境設定の工夫～

事例（知的障害特別支援学校）

・　小学部４年（現在）　　障害名　自閉症
（３年次の児童の様子）
・　コミュニケーション、スケジュールのツールは写真・絵
・　自分がやりたいことができないときや、大好きな活動を終えなければならないときなどに気持ちがすぐ切り替えられないことがあるが、視覚支援としてスケジュールを提示すると、安定することもある。
・　新しい環境になると気持ちが不安定になり、泣きながら両手で頭をたたくことがある。
・　人との関わりでは、特定の友達とふざけ合ったり、手をつないで歩行したりすることができる。
・　好きな遊びはトランポリン・バランスボールに乗ることや、砂遊び

■本人・保護者のねがい

・　日常生活場面の中での身辺自立ができるようになってほしい。
・　一つでも多くできることを増やし、本人が充実した生活を送れるようになってほしい。

■担任する教員のねがい

・　絵カードや言葉でのコミュニケーション能力を伸ばしていきたい。
・　校舎移転で学習環境が変わっても不安定にならないように支援をしていきたい。

★　学習環境が変わっても気持ちが不安定にならないように支援をつなぐ。

小学部3年

■　外部専門家のアセスメントを基にした『個人プログラム』を作成（６月）

＜個人プログラムの内容＞
・計画に沿って行動することができるよう、個別の課題を行う際はスケジュールを用意し、課題終了後に担任に報告して評価を受けるようにする。
・ボディーイメージがまだできていないので、体幹トレーニングが必要である。
・自分の伝えたいことを一日２０回以上伝えることができるよう、自分のコミュニケーションブックを用意し、課題終了後や、休憩時間に活用する。また、コミュニケーションブックを家庭や放課後デイサービス等でも活用する。
・学習環境が変わると不安定になりやすいため、教室レイアウトは新校舎へ移転後もできるだけ変えず、現在使用している本・おもちゃ・教材等を新校舎でも引き続き使用する。

■　支援会議（７月）

【出席者】担任教員　　保護者　　主幹教諭　　外部専門家
主な内容…個人プログラムの内容確認

■　支援会議の内容を学校生活支援シートに反映

３　支援の目標	
①指示を理解する、自発的に要求するなど、絵カードや言葉でのコミュニケーション能力を伸ばす。 ②バランスボールにうつ伏せになり、腕で身体を支え、片手でボールを籠に入れることができる。 ③休み時間の過ごし方や遊び、学習内容などを２～３つの選択肢の中から一つ選ぶことができる。	
学校の支援	家庭の支援
①視覚的に分かりやすいスケジュールを用意する。また、状況に応じた表現方法を本人に示し、絵カードや言葉でのコミュニケーションを多く経験する。 ②体幹で身体を支えられるように教員が支援する。 ③自分のコミュニケーションブックを用意し、選択する機会を多くもつ。	①視覚的に分かりやすいスケジュールを用意する。また、本人からの意思表示をなるべく見逃さないようにし、適切な表現方法を本人に示していく。 ②バランスボール等を使った体幹トレーニングを行う。 ③家庭で自分のコミュニケーションブックを使用する。

■学校では

- 絵カードや言葉でのコミュニケーション能力を伸ばすために、視覚的に分かりやすいスケジュールを用意する。また、状況に応じた表現方法を本人に示し、絵カードや言葉でのコミュニケーションを多く経験する。
- 体幹を鍛えるために、バランスボールにうつ伏せになり、腕で身体を支え、片手でボールをかごに入れる活動を学習に取り入れる。
- 自発的に要求することができるよう、休み時間の過ごし方や遊び、学習内容等を２～３つの選択肢の中から一つ選ぶ機会を多くもつ。

■家庭では

- 視覚的に分かりやすいスケジュールを用意する。また、本人からの意思表示をなるべく見逃さないようにし、適切な表現方法を本人に示していく。
- バランスボールやトランポリンなどを使った体幹トレーニングを日常的に行う。
- 家庭や放課後デイサービス等で自分のコミュニケーションブックを使用し、選択する機会を多くもつ。

教室環境の整備

教室環境を整え、児童が主体的に学校生活を送ることができるよう、外部専門家の支援を受けて学習環境の改善を行った。

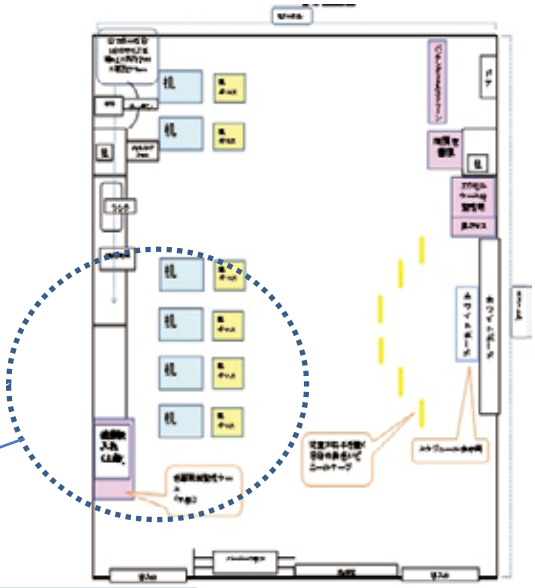
「学習する場所と他の活動をする場を分けたり、黒板に１日のスケジュールを視覚的に示したり、活動する手順を示したりするなどの工夫をすることで、本児の主体的な活動が増す。」との助言を踏まえた。

例：学習環境の改善例

■　新校舎教室レイアウト図を作成（１１月）

配慮した点

・　短い距離の移動で身支度が完結するようなレイアウトにした。
・　旧校舎で使用していた本・おもちゃ・教材等を新校舎でも引き続き使用した。
・　旧校舎同様、物の配置や手順を絵カードで視覚的に示した。



■旧校舎の教室レイアウト

■新校舎の教室レイアウト

新校舎完成　１２月

■　新校舎探検・引っ越しプログラム（１２月）

・　校内探検「どこが自分の教室かな？」…スクールバス降車時から靴箱までの移動の確認と、自分の教室や特別教室の確認をする。
・　引っ越しプログラム「教室に自分の荷物を運ぼう」…１月から使用する教室に自分の荷物を運び、引っ越すことを意識付ける。

■　親子でプレ登校・新校舎での生活スタート（１月）

・　「自分の荷物を持ってこよう」…親子で３学期の始業式前に登校し、新教室へ荷物を持ってきて自分の机や棚を確認し、新校舎を見学する。

■　支援会議（１月）

【参加者】担任　保護者　外部専門家　主幹教諭

・　新校舎移転後の本人の学校・家庭での様子の情報交換
・　学校で行う支援内容（コミュニケーションブックを使って選択する機会を多くもつ等）、家庭で行うことのできる支援内容（バランスボールやトランポリンなどを使った体幹トレーニングを日常的に行う等）を確認した。

■　支援会議の内容を学校生活支援シートに反映

・学校生活支援シートの「成長の様子」「来年度への引継ぎ」の欄に、新校舎への移転で効果的だった支援を記入した。

担任

有効な支援や手だてを学校生活支援シートに記載しました。

児童の変化

移転前に「校内探検」「引っ越しプログラム」「親子で新校舎への登校」を行い、旧校舎で使用していた本・おもちゃ・教材等を新校舎でも引き続き使用した。それらのことによって、新校舎への移転で学習環境が変わっても、不安定になることがほとんどなかった。

旧校舎同様、物の配置や手順を絵カードで視覚的に示したことで、これまで定着していた身支度等を以前と同様に主体的に取り組むことができた。

保護者の反応

夏季休業中から、コミュニケーションブックを家庭や放課後デイサービスで使うようになり、自分からの要求が増えてきました。

学校生活支援シートには家庭で行う支援内容が具体的に記載されていて、実践しやすいです。家庭で行うことができる支援の内容は、今後も継続していきたいと思います。

学校が移転することになり、不安がありましたが、移転前からの学校での継続した支援のおかげで、家では新しい校舎での学校生活が原因で不安定になることがほとんど見られませんでした。

保護者

■　担当する教員が気付いたこと

・　校舎の移転に伴い、児童が不安にならないかと心配でしたが、改めて外部専門家のアドバイスを受け、児童の必要な支援と適切な環境について、より明確になりました。

・　支援会議を通して、児童の実態把握が明確になり、児童の課題や支援内容等を共有することができました。

・　学校生活支援シートに、教室環境の配慮を、「成長の様子」「来年度への引継ぎ」として具体的に記載したことにより、次年度に担任する教員がスムーズに児童の支援を行うことができました。